

東急電鉄池上線「石川台駅」で、「紀州材」を活用した駅のリニューアル工事が始まります！

和歌山県では、県外木材消費地での紀州材の需要拡大に向け、各種支援制度を展開すると共に、イベントや展示会等を通じた普及啓発に取り組んでいます。

東急電鉄株式会社では“木と人がめぐるまちづくり”を目指す「SOCIAL WOOD PROJECT」が進められており、2023年に東京都で開催された展示会での交流を契機に、様々な情報交換や視察を経て、この度、同社が運営する池上線「石川台駅」のリニューアル工事において、和歌山県産の「紀州材」を活用いただくこととなりました。

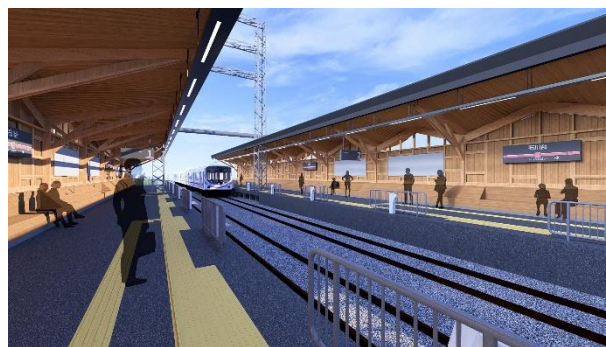
また、今回の事業は、和歌山県の「循環型紀州材認証システム」が“初めて”活用される事例であり、紀州材が生まれた森林が再造林（伐採跡地に木々を植え、再び森林に戻すこと）されることを確認いただきながら、東急電鉄株式会社に紀州材の活用を進めて頂きます。

「池上線石川台駅木になるリニューアル工事」概要

- 建物名称：池上線石川台駅
- 所在地：東京都大田区東雪谷 2-23-1
- 工事内容：
 - ・ホーム屋根の建替え及び延伸（ホーム全体に屋根がかかります）
 - ・駅舎内外装および駅構内トイレのリニューアル※木造化・木質化に「紀州材」が活用されます
- 着工：2026年2月
- 竣工予定：2027年秋頃



SOCIAL WOOD PROJECT ビジョンマップ



石川台駅ホーム屋根イメージパース

(※現時点の予定であり、実際の計画と異なる場合がございます)

(連絡先)

農林水産部 森林林業局 林業振興課
木材産業班 担当：山本、森口
電話：073-441-2968（内線：2968）

【「SOCIAL WOOD PROJECT」とは】

東急線沿線でさまざまな“木にいいこと”を知って・参加して・応援する機会が得られ、なにげない行動からだれもがこれまで以上に森林資源の循環に貢献できる“木と人がめぐるまちづくり”を目指すプロジェクト。

本プロジェクトは、『木材活用』『地方創生』『CSV（共創価値創造）の社会実装』『コミュニティ醸成』を主軸として展開されています。プロジェクトの共創パートナーには、和歌山県内の企業である株式会社ソマノベースも参画しています。

（取り組み内容はこちら https://ii.tokyu.co.jp/withheart/news/swp_ikubyo）

【木になるリニューアルについて】

東急電鉄株式会社では、上記プロジェクトの『木材活用』に関連し、「木になるリニューアル」として、ホーム屋根の建替えや駅舎内外装等の改修において、積極的な国産材活用を進められています。

これまで実施された東急電鉄池上線戸越銀座駅、旗の台駅、長原駅では、東京都多摩地区で生育・生産される木材「多摩産材」の活用による“地産地消”が進められおり、2026年秋竣工予定の同線千鳥町駅では、地方の木材を都市で活用する“地産都消”という考え方のもと、地方産材の活用に取り組みられています。今回、「紀州材」を活用いただく同線石川台駅は、上記各駅に続き、5駅目の取り組みとなります。



戸越銀座駅(2016年度) 旗の台駅(2019年度) 長原駅(2021年度) 千鳥町駅(2026年秋竣工予定)
（「木になるリニューアル」が行われた東急電鉄池上線の各駅）

【「循環型紀州材認証システム」について】

和歌山県では、「紀州材」の原料となる木々が、和歌山の森林で生まれ育ったものであることを確認する仕組みとして、平成22年より「紀州材認証システム」を運用してきました。

一方で、近年、消費者の中に環境配慮の考え方が浸透し、木製品の原料となる木々が伐採された跡地がどのように森林へと再生されていくのか、その森林再生の取り組みについて、全国的に注目されるようになってきました。

そこで、和歌山県では、産地証明制度である「紀州材認証システム」に加えて、「紀州材」の原料となる木々が伐採された跡地が、確実に再造林されることを証明する仕組みとして、令和7年より「循環型紀州材認証システム」の運用を開始しました。

「循環型紀州材」として認証されることにより、単に「紀州材」という産地を知るだけでなく、木材の伐採跡地が再造林されることを確認することが出来るため、持続可能な森林資源の循環利用に繋がる木材として位置づけることが出来ます。